

2020年7月15日

固形腫瘍患者における γ δ T細胞療法の予後規定因子の同定に関する論文が 学術誌『Cytotherapy』に掲載されました。

医療法人社団澁志会 瀬田クリニックグループは、金沢大学、金沢先進医学センターとの共同研究において、標準療法に併用で γ δ T細胞療法を実施した固形腫瘍患者の治療効果と予後を規定する臨床的な因子の解析を行い、本研究結果をまとめた学術論文(*1)が、学術誌『Cytotherapy』に掲載されたのでお知らせいたします。

末梢血中に含まれるTリンパ球のほとんどは α β 鎖のT細胞受容体(TCR)を発現している α β T細胞ですが、 γ δ 鎖のTCRを発現する γ δ T細胞が数%存在しています。 γ δ T細胞は、細菌やウイルスなどに感染した細胞やがん化をはじめた細胞の変化を素早く感知して攻撃をしかけるといった特徴があり、以前から注目されていましたが、体内に数%しか存在せず、培養が難しいことから、治療に用いるのは困難であるとされてきました。そのような状況の中、メディネット社の研究開発によって γ δ T細胞の安定的な大量培養が可能となり、瀬田クリニックグループでは同社から細胞加工技術を導入することで、多数例で治療を実施してきました。今回、標準療法に併用もしくは単独で γ δ T細胞療法を実施された固形腫瘍患者さん131例を対象として、レトロスペクティブに治療効果と予後を解析しました。

[今回確認された主な研究結果]

- γ δ T細胞療法の治療前後の抗腫瘍効果で、安定(SD)もしくは部分奏効(PR)の治療効果が認められた患者さんは、進行(PD)した患者さんよりも予後が良好であった。
- γ δ T細胞療法の効果が現れやすい患者さんでは、治療前のFCM(フローサイトメリー)検査において、 γ δ T細胞の中でV γ 9 γ δ T細胞(γ δ T細胞の種類)が多く含まれていることがわかった。
- γ δ T細胞療法に伴う有害事象は認められなかった。

本研究により γ δ T細胞療法の有用性が明らかになり、特に効果が認められやすい症例の γ δ T細胞の特徴が明らかになりました。

瀬田クリニックグループは今後も、臨床現場で得た最新の知見や研究結果等を速やかに治療に応用するとともに、研究成果に係る情報発信を継続することで、がん免疫細胞治療の発展に貢献してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都千代田区神田駿河台 2-1-45 ニュー駿河台 ビル 3F

TEL: 03-5860-2393 URL: <http://www.j-immunother.com/>

Email: info@j-immunother.com

(*1) Identification of prognostic factors for γ δ T cell immunotherapy in patients with solid tumor

【 瀬田クリニックグループについて 】

1999年3月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」(現:瀬田クリニック東京(東京都千代田区))を開院以来、瀬田クリニックグループ全体で22,000名を超える患者さんに治療を提供しています(2019年9月現在)。2009年に設置した臨床研究センター(現:臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidenceの強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。